

Title	本位田祥男著 消費組合運動
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.7 (1921. 7) ,p.1060(148)- 1062(150)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210701-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

本書は土田氏が「文化學的研究」の第二巻である。氏の所謂文化學若しくは文明學なるものが果して科學として設立し得るや否やに就いての明確なる説明は本書からは得られない。(後篇二頁以下)然し氏が絶えず人類文化の爲めに兎に角孜孜として努力して居ることは敬服すべきことである。何事かなさんとする者は常に何等かの意味に於いて大なる理想論者である。(理想否定論をなすマルクスも人間としては矢張り大なる理想論者であつた。)此の點より見て氏が今後益々大なる理想論者たらんことを希望する。然しそれと共に一層史的研究と事實の攻究とを必要とする。本書は唯其の過程に於ける氏の勞作と見るべきものである。分ちて前後二篇とする前篇は「マルクス思想の文化學的批判」と題し、Dr. Gerhart von Schulze-Gävernitzの「Marx oder Kant」を骨子として、それを解説したものである。然し解説と云ふよりも寧ろ著者の云はんと欲することの爲めに利用したと云ふ方が適當であるかも知れない。殊に哲學的方面に關しては

極めて周到なる註解が附してある。其の爲めに却つて煩雜ならしめ、原著の如く明快に眞意を捕捉することが出来ない。其の點に於いて前篇は「諸地方での通俗講演と云ふよりも寧ろ講堂内の講義」である。(序文二頁)後篇は「現代文化の文化學的批判」と題し「現代文化の基調としての象徴的精神」「文化に於ける人生觀の段階と均衡」「政治の創造的論理とエラン・グイタル」「政治に於ける批判哲學の功過」「現今三大闘争と我が國策の建設」の五篇からなる。何れもそれだけで獨立して居る論文で、氏の文化哲學を實際問題に適應せしめんとしたものである。然し要するに各々通俗講演に過ぎない。それ以上を要求する讀者にとつては失望を感ぜしむるだけである。吾人は氏が其の文化學なるものを如何に體系づけるかを刮目して待つ。(野村兼太郎)

本位田祥男著 消費組合運動

芝三田國文堂發行
四六版 四百頁
定價金貳圓五拾錢

資本家の取得する利潤を以て不當なりとする議論は決して新しさものにあらず。營利主義の經濟組織が屢々思想家の非難攻撃の的となれるは經濟思想史の研究家の周知せる所なり。今この利潤廢止の思想を實際社會組織に應用せんとしたる試の最も成功せるものは消費組合なり。本書は營利主義の害惡たる利潤の廢止を目的とする消費組合運動を歴史的に論述したるものにして、先づ筆を産業革命に起し、その發展の結果たる現代の經濟組織が極端なる營利主義にありて「米を作るにも米を作つたと云ふ歡よりも、多くの人の食糧を作つて社會に奉仕したと云ふ喜よりも、多くの金を得ると云ふ事が何よりの目的である。」と云ふが如き狀態に立ち到りて遂には「一方には物價の騰貴のために飢に泣く者あるにも拘はらず、他方には巨萬の利益を得て贅の限りを盡す者」のあるが如き自利的競争主義の弊を醸せり。この弊害を矯め、相互扶助をその趣旨とする非競争主義を採り、消費のための生産を必要とする思想より生れたるものが消費組

合にして、「消費組合は多くの組合員が各組合員の消費を目的とし或財貨を生産及分配するため任意に團結したるものなりとせり。而して著者はこの組合が英國において最も發達せる有様を記し、この組合がロバート・オーエンの理想に發し、ロッヂデールの組合より益々發達を遂げたる経路を詳説し、更に獨逸ベルギーに於ける消費組合運動史を説述したり。

而して著者は消費組合を以て、販賣組織を整理し冗員を淘汰し、物價を低下し、經濟界を安定せしむると同時に精神的方面においては愛の欲求を満足せしむる效果の存するものなりとせり。更らに消費組合の限界を論じたる後、生産管理權の問題を論じたり。著者は先づ産業管理權に對するウェッブの分類即ち(一)製造財貨の分量、種類、時、(二)生産過程の管理權、(三)勞働條件に關し、消費組合組織においては(一)及(二)を消費者の決定に俟つものとなし、この問題に對するコールの批評即ち(二)を生産者の手の中に置かんとする論を論駁したり。著者はギル

ドローシャリズムの労働者自治論を以て、資本家の専制に代ふるに、労働者の専制を以てするものとなし、「凡ての人は消費者であると共に生産者である以上生産者が管理すると云ふも、消費者が管理すると云ふも観念的に各々の利害に出入りは無い筈」なりとせり。されど著者のこの問題に對する論駁は吾人を以て見れば、甚だ當らず。吾人は著者がこの問題を論じ去る以前に機能的民主主義の理論を説明したるユールの「Social Theory」を、將來の社會における消費組合の地位を比較的多く論じたる「Guild Socialism Restated」を熟讀するの必要あるを信するものなり。

次に本書は消費組合と社會階級との關係を論じ、それが階級闘争以上の愛の欲求を満足せしむる點において、社會階級的性質を有せざる中立的性質を有せざるものとなせり。(勿論消費組合は労働者の間に發達したるを以てよりプロレタリアト的なるも)更に本邦における消費組合運動を以て本文を終り、附録に産業組合に關す

前號(第十五卷) 第六號 目次 (大正十年六月號)

論 說

最近數年間に於ける銀價の動搖 堀江 歸一
大陸封鎖令(下) 阿部 秀助

プラトンの國家觀と之れに對する
アリストテレスの批評(三完) 高橋誠一郎

雜 錄

リカルドオ略傳附年譜 小泉 信三
ウィザールの社會主義評論梗概 三邊 金藏
八十年代の英國社會主義(二完) 加田 哲二
國家機能の二分岐(二完) 奥井復太郎
保險數學の發達 園 乾治
クラーク教授の資本の機能に就て 金原賢之助

新刊紹介

Dr. Kurt Giese: Das Seefrachttariffwesen.
アスクウキス卿の「産業上の諸問題と争議」 増井 幸雄
上田貞次郎著「株式會社經濟論」 堀江 歸一
園 乾治
理財學會々報

る法令を附したり。著者は消費組合運動の中心思想が愛に存するを以て、そのMottoとして扉の後に「誠に同胞よ、友情は天國であり、夫なくば地獄である。友情は生命であり、夫を缺かば亡びよう。」と書せるは、恐らくWilliam Morrisが「A Dream of John Ball」に「As for Fellowship, brothers, fellowship is heaven, and lack of fellowship is hell: fellowship is life, and lack of fellowship is death.」と云くものゝ翻譯なるか、或は偶然の符合なるべし。そは兎に角、本書は社會改造の消費的方面特にその豊富なる歴史的資料を提供するものとして有益なる著作たるを失はず。
(加田哲二)

●一冊 定價 金五拾錢
●一ヶ年 分金貳圓九拾錢
●一ヶ年 分金五圓四拾錢
●郵税金壹錢五厘
●郵 稅 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限
大正十年六月三十日印刷納本
大正十年七月一日發行

每月一回一日發行

三田學會雜誌 禁轉載
第五十卷 第七號
編輯者 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵五郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金 子 活 版 所

發賣元 國文堂書店
東京市芝區三田貳丁目壹番地

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
電話高輪一三三番
振替東京四六九四九番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會